

2024年7月25日
イオン九州株式会社
イオンアグリ創造株式会社
カルビー株式会社

7月29日（月）発売！今年で販売 **5周年**

自然にやさしい農法で生まれた商品をより身近にお届けしたいから
大分県産『有機じゃがいもを使用したポテトチップス うすしお味』
本州・四国・九州の「イオン」「イオンスタイル」などで限定販売！

イオン九州株式会社（以下 イオン九州）とイオンアグリ創造株式会社（以下 イオンアグリ創造）およびカルビー株式会社（以下 カルビー）は、それぞれの事業分野で連携し、今年で5年目となる大分県産『有機じゃがいもを使用したポテトチップス うすしお味』を7月29日（月）より順次販売いたします。



このプロジェクトは持続可能な方法で生産された作物を商品化することで、環境に配慮した商品をより身近に消費者へお届けしたいというイオン九州の提案に対して、イオンアグリ創造は有機JAS認証の大分九重農場にて原料となるじゃがいもの栽培、そしてカルビーは鹿児島工場での商品化でそれぞれに協力をいただき、2020年より商品化がスタートいたしました。

2016年より土作りなど土壌作りを開始し、2017年・2018年に試験栽培を実施、2020年に商品化に向けて種芋植えをスタートしました。たくさんのお客さまにご好評いただき「有機じゃがいもを使用したポテトチップス」の販売は、今年で販売5周年を迎えました。



よりサステナブルな商品にしたいと考え、2022年からはじゃがいもの有機栽培に加え「食品リサイクルループ」のしくみで生み出された環境にやさしい“たい肥”を使用しています。

資源循環型社会を目指す「食品リサイクルループ」は、大分県内の「イオン」「マックスバリュ」14店舗から出た食品廃棄物を株式会社環境整備産業（大分市）が回収・たい肥化し、イオンアグリ創造の農場でたい肥を使用して農作物を栽培、収穫された農作物をイオン九州の店舗で販売するという取り組みです。

この取り組みは、2021年5月に農林水産大臣・環境大臣・経済産業大臣より食品循環資源の再生利用事業計画（食品リサイクルループ）として大分県で初めて認定されました。



「食品リサイクルループ」から生まれた“たい肥”をイオンアグリ創造大分九重農場の土に追加し、今年の3月に種芋を植え、7月中旬に収穫された有機栽培じゃがいも約9.5トンを実験農場にて商品化しました。じゃがいも本来の味を感じていただけるように、シンプルな“塩のみ”の味付けです。

販売5周年となる今年は、昨年から販売エリアを拡大し、本州・四国・九州の店舗にて販売いたします。

■店舗での販売について



商品名：有機じゃがいもを使用した
ポテトチップス うすしお味

規格：1袋 50g

価格：本体価格 198円(税込213.84円)

発売日：2024年7月29日(月)

※数量限定商品となっておりますので、なくなり次第販売終了となります。

販売店舗：

九州内の「イオン」「イオンスタイル」「マックスバリュ」「マックスバリュエクスプレス」223店舗
※イオン有家店・イオン錦店・イオン江北店・イオン佐世保四ヶ町店では取り扱いがございません。

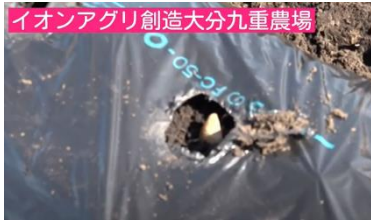
本州・四国の「イオン」「イオンスタイル」「マックスバリュ」「マルナカ」「ダイエー」

※一部、取り扱いがない店舗がございます。

※数量限定商品となっておりますので、なくなり次第販売終了となります。

※本州・四国エリアにおいては、限定店舗での販売となりますので、商品の取り扱いについては店頭でご確認ください。

■大分県産『有機じゃがいもを使用したポテトチップス うすしお味』ができるまで



3月 種芋植え



6月 草刈り



7月中旬 収穫



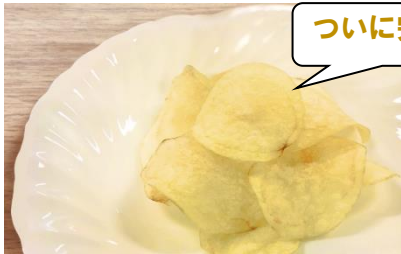
7月中旬 立派な有機栽培のじゃがいも！



7月下旬 カルビー鹿児島工場にて加工



※写真は、新宇都宮工場で撮影したものです。



じゃがいも本来の味を感じていただけるように今年も“塩のみ”でシンプルな味付けに！

じゃがいもへのこだわりについて

2012年に世界基準の農業生産工程管理認証であるGLOBAL G.A.Pを、2018年には有機JAS認証を取得した、「イオンアグリ創造(株)大分九重農場」で栽培した、こだわりのじゃがいもです。

■イオンアグリ創造大分九重農場について

イオンアグリ創造大分九重農場



左から佐藤 九州栽培管理指導兼営業マネージャーと川口 大分九重農場長

住 所：大分県玖珠郡九重町
 開 場：2011年6月
 面 積：14ha
 栽 培 品 種：白ネギ
 オーガニックじゃがいも
 オーガニックブルーベリー
 ■農業生産工程管理 GLOBAL G.A.P 認定取得
 ■有機JAS認証農場

有機じゃがいもの栽培にあたっては、「日本農林規格等に関する法律」(JAS法)で決められた肥料・農薬でしか栽培ができないため、常に圃場巡回を行い、除草や害虫退治を行ってきました。

以上